小中一貫校　南アルプス市立小笠原小学校　学校通信

あかるく　かしこく　たくましく

令和６年６月１９日　Ｎｏ．１２　文責：校長　佐野紳二

「性格」について

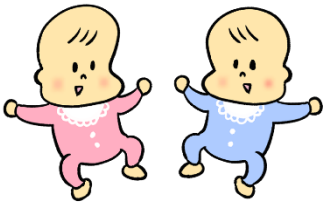
「Ａさんはおとなしくて引っ込み思案な性格だから…。」
「Ｂさんは短気で怒りっぽい性格だよね。」
「Ｃさんは大雑把な性格で，細かいことをあんまり気にしない人だし…」

私たちは普段の生活の中で，個々の人の「性格」を話題にすることがよくあります。

前回は「傾聴」について採り上げた，不定期連載シリーズ「心理学の知見から」の第２弾（いつの間にかシリーズ化しています）は，この「性格」に関する心理学の知見を紹介してみたいと思います。あまり難しい話にはしないつもりなので，リラックスしてお読みください。

性格は生まれる前と生まれたあとの両方で決まる

古くから心理学では，性格をキャラクター（性格）とパーソナリティ（人格）という２つの言葉で定義してきました。キャラクターとは，その人が生まれたときから持っている資質，いわゆる遺伝的なものと解釈され，パーソナリティは生まれたあとの育った環境の影響から培われたものとされています。



性格が先天的要素，後天的要素のどちらに色濃く影響を受けるのかについては，現代においてもまだ結論が出ていません。一般的に，人の考え方や行動は後天的な環境での経験や学習で身につけられるとされますが，一卵性双生児を観察したデータからは，違った環境で育った場合でも性格が似ているケースがよく見られることが分かっています。となると，生まれながらのキャラクターに，成長していく間に身につけたパーソナリティが加わって性格ができていると理解するのが妥当なようです。つまり，性格はキャラクターとパーソナリティの相互作用によって形作られているようです。

性格と知能は遺伝と環境，どちらの影響を受けやすい？

性格が遺伝と環境のどちらにより影響を受けるかを調べる方法に，一卵性双生児と二卵性双生児を比較して研究する方法（双生児法）があります。遺伝情報が１００％同じ一卵性双生児と，別々の受精卵から生まれてくるため，遺伝子的には一般のきょうだいと同じ二卵性双生児を比較し，その結果，一卵性双生児のきょうだいの性格の差が二卵性双生児よりも小さければ，性格は遺伝によってより影響を受けるということになります。逆に，一卵性双生児と二卵性双生児の差があまりなければ，性格は環境によってより影響を受けるということになります。調査の結果，以下のようなことが明らかになったそうです。

◇性格には遺伝の影響が半分近くあるが，それ以外にも非共有環境（個人的な友達付き合いや経験）が性格の形成に大きく影響する。
◇学力には遺伝の影響がおよそ半分近くあるが，共有環境（特に学校や先生）の影響も大きい。
◇自尊感情や信頼感の形質には遺伝の影響は少なく，環境の影響が大きい。
◇スポーツや音楽の適正（才能）は遺伝の影響が大きいが，美術や記憶・知識は遺伝の影響が少ない。

また，アメリカの心理学者アーサー・K・ジェンセンは環境閾値説という考え方を提唱しています。これはある人間が環境の影響を受けて才能を開花させるためには，それが現れるのに必要な環境が一定水準与えられていることが前提であるという考え方です。先日の日曜日，大谷翔平選手とお父さんのことが話題になっていましたが，お父さんが野球に取り組む環境をつくったから大谷選手の才能が開花した，というのがこの環境閾値説の一例でしょうか。

きょうだいの性格はどのように決まる？

同じ親から生まれ，同じ環境で育ったにも関わらず，きょうだいで性格がかなり違うということはよくあります。これは，それぞれの子どもに対する親の接し方の違いが，きょうだいの性格の違いをつくると考えられているようです。

例えば，長子（最初の子）に対しては，どうしても親は子育て熱心になりがちで，積極的に子どもに関わろうとします。ところが，二人目以降（中間子）になると，かなり余裕をもって子育てができるようになります。また，親は長子には早い自立を促しますが，末っ子にはいつまでもかわいらしさを期待しがちです。

長子にとってみれば，次子の誕生によって母親の愛情が半分奪われたように感じることで，それを乗り越え，耐える力がつくとされています。一方，次子以降の子どもは，自分より年長を相手にしなければならないので，要領を身につけ，親の注目を集める行動を意識してするようになります。（あくまでも一般論です）

きょうだいは，その年齢差によっても関わり方が変わります。年齢差が小さいと，お互いを意識してライバル心が芽生え，ケンカも多くなりがちです。一般的には年齢差が小さい姉妹は仲良しになりやすく，年齢差が小さい兄弟はケンカが多くなる傾向にあるそうです。年齢差が大きいと年上は余裕を持って対応できるようですが，年齢差の大きい兄妹・姉弟の関係は長子が威張っている関係になることが多くなり，また，ある一定以上の年齢差があるきょうだいは，お互いにあまり干渉しない関係になりがちなのだそうです。

私には一つ年上の兄がいます。年齢の近い兄弟なので，上の記述にもあるように，仲は良かったですが，小さい頃はしょっちゅうケンカをしていた記憶があります。お互いにあまり干渉しなくなったのは中学生になったころでしょうか…。兄は面倒見がよく，弟の私が甘えん坊でわがままだったというのも，典型的な兄弟の例かも知れません。

兄は運動や書道が得意で，どちらかというと控えめな性格でした。私は授業中にたびたび手をあげるような，いわゆる「ちょびちょびした」悪ガキでした。でも，やはり中学生になる頃から二人の性格は変わり始め，今では社交的な兄，ひっけな弟（かな？）という感じになっています。

性格について，いくつかの話題を紹介してみましたが，いかがだったでしょうか？「そうそう」「なるほど」と納得できるものもあれば，「えーっ，そうかなぁ」と思うこともあったかと思いますが，あくまでも一般論として聞いていただければと思います。次号では，性格の話の第２弾として，「性格の分類」について紹介させていただこうと思っています。

参考文献：「面白いほどよくわかる！心理学の本」　著：渋谷昌三　西東社
理系とーく　https://rikei-talk.com/wr025-twin-method/